



The Japan Research Institute, Limited

<http://www.jri.co.jp>

株式会社日本総合研究所

行動力あふれるビジネススタイルをセキュアに支える RSA SecurID®

「知識エンジニアリング」(情報を加工し知識化し、それらを組み立て新たな価値を作り出す知的生産活動)を事業の柱に、さまざまな角度からトータルなソリューションを展開している株式会社日本総合研究所。コンサルタントなど、社外で活動することの多い社員を対象に、外出先から社内ネットワークへアクセスできるシステムとなっており、約1,000人の社員が随時、メールチェックや社内掲示板などに利用している。そうしたモバイルアクセスに対するセキュリティ認証の入り口として機能しているのが RSA SecurID である。社内システムをオープンにする上で欠かすことのできないセキュリティの確保について、グループIT企画部 支配人の萩原悦司氏にお話を伺った。



社員のビジネススタイルを最優先に社外からのモバイルアクセスを許可
日本総合研究所(以下、日本総研)は、その独自のリサーチ力に基づいた確かな分析や情報発信を通じて、そしてまた、産業や金融、官公庁という幅広いフィールドを対象としたトータルなシステムインテグレーションの提供を通じて、私たちの社会や経済に大きく貢献するビジネスを展開してきた。

シンクタンク、コンサルティング、システムインテグレーションという3つの事業を柱に、各事業部門が有機的に結びつく同社のビジネススタイルを根底で支えているのは、社員一人ひとりが自立して、社内外で積極的にビジネスに取り組む姿だ。同社では、コンサルタントやシステムインテグレータなど、顧客企業に常駐して活動する社員も多く、顧客企業からの要望に応じて、事業部の枠を越えて社員同士が密接に連携し、コラボレーションすることで、案件を成功へと導いている。このように、同社では、社員が仕事しやすい環境作りを最優先する立場から、社外から社内システムにモバイルアクセスできるネットワークを構築して

いる。同社のネットワーク構築やセキュリティに対する取り組みについて、システム構築を担当するグループIT企画部 支配人の萩原氏は次のように語る。

「外部から社内ネットワークにアクセスする場合でも、その社員の業務に関係する情報資産については、できるだけ制限を設けずに自由に情報を入手できる仕組みを作りたいと考えています。もちろんそうしたシステム実現のためには、アクセスの際のログインからネットワーク構築にいたるまで、セキュアな環境の確保は欠かせません。なお、セキュリティ確保の観点から、今後はアクセス制限を設ける必要が出てくるかもしれませんが、できるだけ利便性を優先しつつ、セキュアな環境づくりに取り組んでいきます」

同社では、公衆回線およびインターネット経由で社内の情報資産にアクセスできるネットワークを構築、社員は外出先から社内同様に求める情報を得て各自の業務に役立てている。そうした社外からのモバイルアクセスに対して、同社の保有する情報資産をセキュアに守っているのが、RSA セキュリティの RSA SecurID である。

株式会社日本総合研究所

シンクタンク、コンサルティング、システムインテグレーションの3つの事業を柱に、各事業部門は横断的に連携して顧客の複合的なニーズに迅速かつ的確に対応する。システムの構築から運用までトータルソリューションを提供しており、対象フィールドは一般企業や金融、官公庁と幅広い。



株式会社日本総研研究所
グループIT企画部 支配人
萩原悦司氏

RSA SecurID
導入のポイント

- ・手軽に持ち歩きでき、どこからでもアクセスできる利便性の高さ
- ・暗証番号+ワンタイムパスワードという、二重のセキュリティ
- ・トークンを携帯する社員に対する、セキュリティ意識の養成

SSL-VPNにRSA SecurIDを組み合わせ、セキュアなモバイルアクセスを実現
社外から日本総研の社内システムにアクセスする際、当初は携帯電話等による公衆回線を経由してアクセスしていたが、外出先のWANや自宅のインターネットから社内システムを利用したいという要望に応えるべく、米Aventail社の「Aventail EX-1500」を用いたセキュアなSSL-VPNを構築、ログインの際の認証ツールとしてRSA SecurIDを用いることで、よりセキュアなネットワーク環境を実現している。

RSA SecurIDの特徴は、何より、高い利便性と信頼性にある。利用者に配布されるカード型のRSA SecurIDに表示される6桁の数字を、暗証番号と合わせてログイン画面に入力、本人確認を行う。指紋認証のように専用のリーダー機器も不要で、毎分変わるワンタイム・パスワードは、固定パスワードのように番号を盗まれたり推察される心配もない。

SSL-VPNが構築されたことで、社外で活動している社員は随時、公衆回線やインターネットを介してRSA SecurIDによる認証を経て社内ネットワークにアクセスして、メールチェックや社内掲示板の利用、出張の事前申請など、各自の業務に役立てているという。

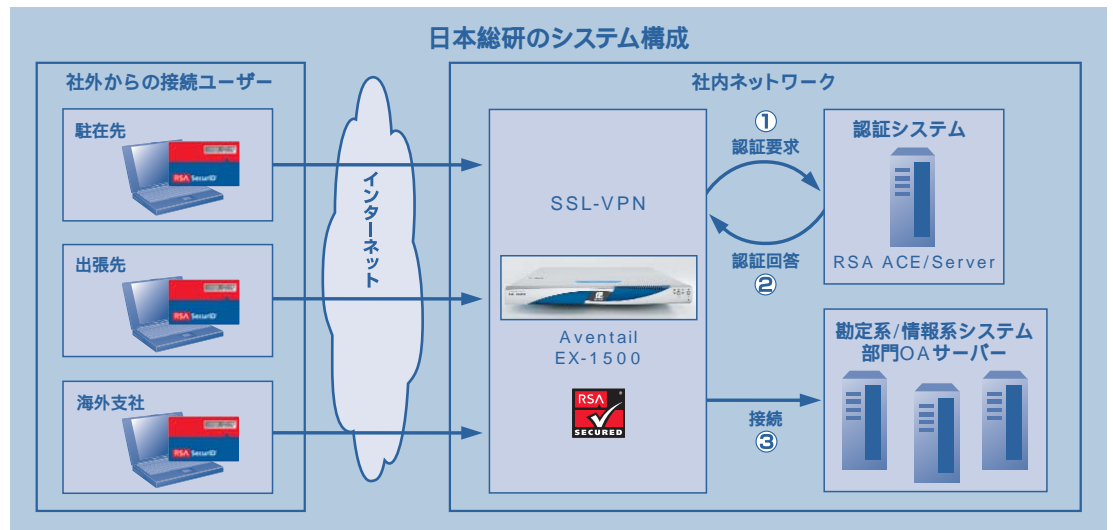
「社員には外出の際、トークンをPCと分けて持ち歩くよう指導しています。そうすることで、万が一ノートPCの入ったカバンを紛失しても、トークンがないので不正アクセスは回避できます」と、萩原氏は、RSA SecurIDの物理的なメリットについて語る。

一部からの要望を受けてテスト導入
現在では全社員の約1/3が利用

日本総研はシンクタンクやコンサルティングなどで顧客情報を扱う業務を行っていることから、機密保持に対する意識も非常に高く、常に万全なセキュリティ対策が求められていた。そのため、RSA SecurIDの導入を検討した1997年当時、国内での導入実績がまだそれほどなかったことから、モバイルアクセス自体の是非も含めて、RSA SecurID導入に慎重な声も聞かれたという。

「モバイルアクセスはいずれ業務に必要不可欠なものと確信しており、そのために外部アクセスの際のセキュリティ対策が必要でした。RSA SecurIDは、特に海外での実績や利用の手軽さから導入を決定しました。導入から現在までトラブルもなく、今では多くの社員が当たり前のように利用しています。今後も当社のネットワークは進化していきますが、手軽で確実なセキュリティツールとして、これからもRSA SecurIDを活用したい」と、萩原氏はRSA SecurIDに信頼を寄せる。そうしたテスト導入を経て、次第に社外からのアクセスに対する要望も高まるなど、2004年現在では、約1,000名、全社員の約1/3が、RSA SecurIDを利用している。社員からはモバイルアクセスにおけるセキュリティ確保にはRSA SecurIDのトークンが必要不可欠との理解を得ているという。

モバイルアクセスに対するニーズを把握するとともに、社員の働きやすい環境づくりを最優先に、RSA SecurIDの導入をいち早く果たした日本総研。同社の今後の取り組みに期待したい。



RSAセキュリティ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビルディング
エンタープライズ営業本部 TEL.03-5222-5230
http://www.rsasecurity.co.jp info-j@rsasecurity.com

お問い合わせ先